

第34卷・第10号 昭和28年5月15日第三種郵便物認可

昭和61年10月1日(毎月1回1日発行)

# 牧草と園藝



10

1986

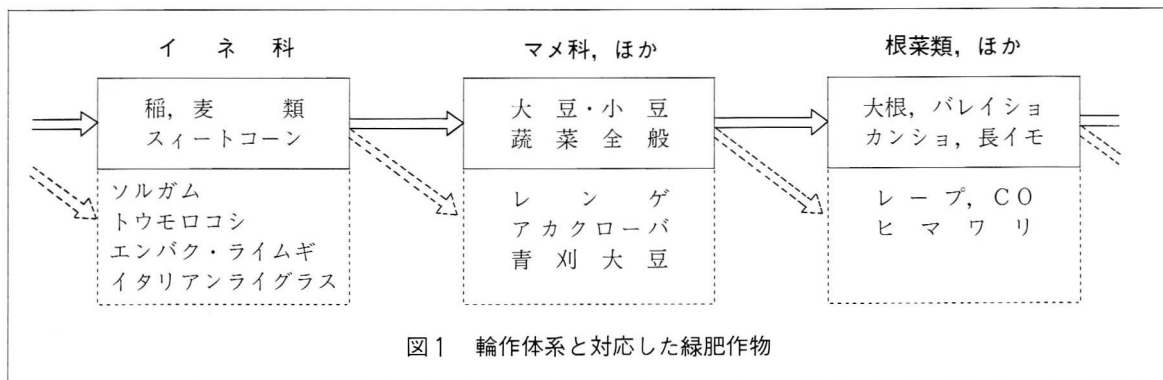
# 緑肥作物栽培を推進しましょう!!

作物栽培の基本は輪作です。輪作せずに連作を続けると、特定病虫害の多発や地力の減耗を招来し、品質の低下や収量の減少を来し、経営面に大きな問題をひきおこしてきます。

特に、主産地形成地帯や地域特産野菜のウエイトが高い場合は、概して連作傾向が増大し、土壤に起因する種々の障害が多発します。

緑肥作物の栽培は、原則的には長期的な視野で輪作（栽培）の一環としてそれが組み込まれるのが理想です。ともすると、連作障害でにっちもさっちもいけなくなり、緑肥（栽培）が検討・導入されるケースが多く、この場合、短年の導入で速効的な効果を期待するのは難しいことです。

従って、輪作の基本、すなわち地力の維持と培養に基づき中心作物の区分と対応かつ補完できる緑肥作物の選定がポイントとなってきます。



緑肥作物の活用事例は幅が広く、中心となる地力の維持・培養を主眼としたケースのほかに、① 施設園芸（栽培）における過剰塩基の吸収除去、② 果菜類の風よけ栽培及び敷料生産・利用、③ 休作期間中の雑草抑制や土壤保全等々が含まれてきます。この場合は、主たる緑肥効果と即応した緑肥作物の選択が必要です。

## 緑肥作物栽培のバリエーションと適作物

- ① 夏作：グリーンソルゴー、ヘイスーダン  
 冬作：マンモスイタリアンB、スーパーCO } 搬出緑肥とする。
- ② { メロン・スイカ：初春（ライムギ）、オールマイティ（エンバク）  
 コニャク：ハイオーツ（エンバク）
- ③ 夏作：ヘイスーダン、アカクローバ（寒高冷地）  
 冬作：マンモスイタリアンB、ハヤテ（エンバク）、レンゲ